

## 2024年3月期 第2四半期決算短信(日本基準)(連結)

2023年10月31日

上場会社名 株式会社 プロトコーポレーション  
コード番号 4298 URL <https://www.proto-g.co.jp/>  
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 神谷 健司  
問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 (氏名) 鈴木 毅人  
四半期報告書提出予定日 2023年11月14日 配当支払開始予定日 2023年11月20日  
四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

上場取引所 東名

TEL 052-934-2000

(百万円未満切捨て)

## 1. 2024年3月期第2四半期の連結業績(2023年4月1日～2023年9月30日)

## (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期第2四半期	54,558	9.5	3,774	4.6	4,317	17.7	2,836	18.1
2023年3月期第2四半期	49,811	89.3	3,607	17.0	3,668	13.6	2,401	33.7

(注) 包括利益 2024年3月期第2四半期 2,912百万円 (32.9%) 2023年3月期第2四半期 2,192百万円 (43.2%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年3月期第2四半期	70.50	
2023年3月期第2四半期	59.74	

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年3月期第2四半期	64,490	45,778	70.5
2023年3月期	60,553	43,515	71.3

(参考) 自己資本 2024年3月期第2四半期 45,435百万円 2023年3月期 43,184百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年3月期		17.50		17.50	35.00
2024年3月期		17.50			
2024年3月期(予想)				17.50	35.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 2024年3月期の連結業績予想(2023年4月1日～2024年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	112,538	6.6	8,164	11.3	8,707	25.0	5,886	33.0	146.26

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

#### 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- |                    |     |
|--------------------|-----|
| 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 | : 無 |
| 以外の会計方針の変更         | : 無 |
| 会計上の見積りの変更         | : 無 |
| 修正再表示              | : 無 |

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2024年3月期2Q	41,925,300 株	2023年3月期	41,925,300 株
期末自己株式数	2024年3月期2Q	1,663,807 株	2023年3月期	1,704,227 株
期中平均株式数(四半期累計)	2024年3月期2Q	40,232,587 株	2023年3月期2Q	40,195,303 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

#### 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P.4「1.当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	11
(会計方針の変更)	11
(セグメント情報等)	12
(収益認識関係)	14

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

#### ①当期の経営成績

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、好調な企業収益を背景とした設備投資や雇用・所得環境の改善による個人消費の持ち直しが継続しており、緩やかな回復が続くことが期待される一方、世界的な金融引き締めに伴う物価上昇による消費低迷懸念、円安進行による仕入れ原価の上昇等、わが国の景気を下押しするリスクを十分に注視していく必要があります。

こうした経済環境の中、当社グループの主要顧客である自動車販売業界におきましては、半導体をはじめとした部品の供給不足が徐々に緩和されてきており、新車販売台数は前年実績を上回る水準で推移いたしました。また、中古車登録台数についても、新車の供給不足緩和の影響により、前年を若干上回る水準で推移いたしました。

このような状況の中、当社グループにおきましては、多様化するユーザーニーズや今後の市場環境を踏まえて策定した「中期経営計画(2023年3月期～2025年3月期)」に基づき、当社が保有するマスター、AI技術及びデータを掛け合わせることで、モビリティ領域のDXに寄与する新商品・サービスの提供に取り組んでまいりました。

以上のことから、当第2四半期連結累計期間の売上高は、54,558百万円(対前年同期比9.5%増)となりました。増収となった主な要因は、基幹事業であるプラットフォーム事業が堅調に拡大したことに加え、コスミック流通産業株式会社におけるチケット販売事業が拡大したことによるものであります。営業利益は、「MOTOR GATE」を中心としたプラットフォーム事業に関連するDX商品の提供が堅調に推移したことによる影響などにより、3,774百万円(対前年同期比4.6%増)となり、経常利益は、為替相場の変動により、為替リスクを回避するために行っていた通貨オプション取引に含み益が発生したことによるデリバティブ評価益を計上したことが影響し、4,317百万円(対前年同期比17.7%増)となりました。親会社株主に帰属する四半期純利益につきましては、上記のデリバティブ評価益の計上があったことが影響し、2,836百万円(対前年同期比18.1%増)となりました。

#### ②セグメント別の概況

事業のセグメント別の業績につきましては、次のとおりであります。

##### (プラットフォーム)

モビリティ業界No.1のプラットフォームの構築を目指し、各事業領域におけるシェアの拡大並びに顧客当たりの取引単価の維持・拡大に努めるとともに、モビリティ領域のDXに寄与するサービスの強化に取り組んでまいりました。

中古車領域においては「グーネット」のコンテンツ量最大化、「グーネット」のバックグラウンドシステムである「MOTOR GATE」の提供及び機能向上を通じた取引拠点数の拡大並びに中古車販売店の経営支援に取り組んでまいりました。整備領域においては「グーネットピット」におけるコンテンツの拡充に加え、入庫管理システム「MOTOR GATE PIT IN」の提供、新車領域においては引き続き「DataLine SalesGuide」の拡販に取り組んでまいりました。

以上の結果、売上高は15,672百万円(対前年同期比5.6%増)となりました。増収となった主な要因は「MOTOR GATE」及び「DataLine SalesGuide」を中心とするプラットフォーム事業におけるDX商品の提供が堅調に推移したことによるものであります。営業利益につきましては、上記のプラットフォーム事業の伸長により4,556百万円(対前年同期比4.3%増)となりました。

## (コマース)

タイヤ・ホイール等の販売は、引き続き、主要取扱ブランドの販売強化に取り組むとともに、当社の「グーネット」、「グーネットピット」、「MOTOR GATEショッピング」等とのシナジーを追求することで販売機会の拡大に努めてまいりました。また、コスミック流通産業株式会社についても、当社の保有するインターネットビジネスにおけるノウハウを提供することで、商品券やギフト券等の販売機会の拡大に努めてまいりました。

以上の結果、売上高は34,974百万円（対前年同期比8.9%増）となりました。営業利益につきましては、2013年の株式会社オートウェイ買収に関連したのれん償却が前連結会計年度で終了したことに加え、前第1四半期連結会計期間においてコスミック流通産業株式会社の買収に関連した費用が計上されていたことなどにより、163百万円（対前年同期比193.9%増）となりました。

## (その他)

前第2四半期連結会計期間に沖縄バスケットボール株式会社の株式を取得し、同社及び同社の子会社である沖縄アリーナ株式会社及び沖縄スポーツアカデミー株式会社を連結の範囲に含めたことなどにより、売上高は3,910百万円（対前年同期比37.4%増）、営業利益は90百万円（対前年同期比44.0%減）となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

## ①資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末の総資産は64,490百万円となり、前連結会計年度末と比較して、3,936百万円の増加となりました。資産、負債及び純資産の状況につきましては、次のとおりであります。

## i 資産

流動資産につきましては、株式会社オートウェイにおける棚卸資産の増加などから、42,336百万円となり、前連結会計年度末と比較して、2,798百万円の増加となりました。

固定資産につきましては、株式会社プロトコーポレーションにおけるソフトウェアの増加などから、22,154百万円となり、前連結会計年度末と比較して、1,138百万円の増加となりました。

## ii 負債

流動負債につきましては、株式会社タイヤワールド館ベストにおける短期借入金の増加などから、17,245百万円となり、前連結会計年度末と比較して、1,706百万円の増加となりました。

固定負債につきましては、株式会社オートウェイ及び株式会社プロトソリューションにおける長期借入金の減少などから、1,466百万円となり、前連結会計年度末と比較して、32百万円の減少となりました。

## iii 純資産

剰余金の配当が703百万円発生した一方、親会社株主に帰属する四半期純利益2,836百万円の計上により、純資産は45,778百万円となり、前連結会計年度末と比較して、2,263百万円の増加となりました。

## ②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物につきましては、前連結会計年度末と比較して、596百万円増加し、24,091百万円となりました。現金及び現金同等物が増加した主な要因につきましては、次のとおりであります。

## i 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動によるキャッシュ・フローは、1,626百万円の収入となり、前年同期と比べ1,565百万円の収入の増加となりました。主な要因は、棚卸資産の増加額が1,613百万円減少したことによるものであります。

## ii 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動によるキャッシュ・フローは、1,019百万円の支出となり、前年同期と比べ2,154百万円の支出の減少となりました。主な要因は、連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出が1,262百万円減少したこと、及び、有形固定資産の取得による支出が541百万円減少したことによるものであります。

## iii 財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動によるキャッシュ・フローは、17百万円の支出(前年同期は444百万円の収入)となりました。主な要因は、短期借入金の増加額が500百万円減少したことによるものであります。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

最近の業績動向を踏まえ、2023年5月12日に公表いたしました2024年3月期(2023年4月1日～2024年3月31日)の業績予想を下記のとおり修正いたしました。

当第2四半期連結累計期間につきましては、主にコスミック流通産業株式会社における商品券やギフト券等の販売が好調に推移するとともに、株式会社プロトコーポレーションにおいて「MOTOR GATE」及び「DataLine SalesGuide」を中心としたプラットフォーム事業の売上高が堅調に推移したことにより、当第2四半期連結累計期間の実績が売上・営業利益ともに当初計画を上回りました。

なお、第3四半期以降につきましても、プラットフォーム事業における、中古車、整備、新車の各領域でDX商品・サービスの拡販に努めるとともに、コマース事業においても収益性の改善に努めてまいりますが、物価上昇による消費低迷懸念、円安進行による仕入れ原価の上昇等、先行き不透明な市場環境を踏まえ、当第2四半期連結累計期間における上振れ分のみを加味した業績予想としております。

以上のことから、売上高は前回発表予想に対して3,158百万円増の112,538百万円(対前年同期比6.6%増)、営業利益は前回発表予想に対して424百万円増の8,164百万円(同11.3%増)、経常利益は前回発表予想に対して977百万円増の8,707百万円(同25.0%増)、親会社株主に帰属する当期純利益は前回発表予想に対して546百万円増の5,886百万円(同33.0%増)を見込んでおります。詳細は下表に記載をしております。

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
前回発表予想(A)	百万円 109,380	百万円 7,740	百万円 7,730	百万円 5,340	円 銭 132.68
今回修正予想(B)	112,538	8,164	8,707	5,886	146.26
増減額(B-A)	3,158	424	977	546	—
増減率(%)	2.9	5.5	12.6	10.2	—
(ご参考)前期実績(2023年3月期)	105,596	7,336	6,963	4,424	110.05

なお、業績見通しは、当社グループが現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づき算定しておりますが、予想に内在する不確定要因や今後の事業運営における状況の変化等により、実際の業績等は大きく異なる可能性があることをご了承ください。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	23,739	24,349
受取手形及び売掛金	6,107	5,640
棚卸資産	7,669	9,119
その他	2,025	3,231
貸倒引当金	△4	△5
流動資産合計	39,537	42,336
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	5,729	5,624
土地	5,590	5,590
その他（純額）	758	780
有形固定資産合計	12,078	11,996
無形固定資産		
のれん	2,365	2,256
その他	1,858	2,460
無形固定資産合計	4,224	4,716
投資その他の資産		
投資有価証券	2,367	2,845
その他	2,404	2,656
貸倒引当金	△59	△60
投資その他の資産合計	4,712	5,441
固定資産合計	21,016	22,154
資産合計	60,553	64,490

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,709	1,470
電子記録債務	1,482	1,662
短期借入金	3,600	4,400
1年内返済予定の長期借入金	123	82
未払費用	2,693	2,945
未払法人税等	1,160	1,728
契約負債	37	37
賞与引当金	210	331
商品保証引当金	16	15
その他	4,505	4,570
流動負債合計	15,538	17,245
固定負債		
長期借入金	529	491
役員退職慰労引当金	256	266
退職給付に係る負債	135	148
資産除去債務	343	348
その他	234	212
固定負債合計	1,499	1,466
負債合計	17,038	18,711
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,849	1,849
資本剰余金	2,070	2,089
利益剰余金	40,139	42,278
自己株式	△1,260	△1,230
株主資本合計	42,799	44,986
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	396	470
為替換算調整勘定	△11	△20
その他の包括利益累計額合計	385	449
非支配株主持分	330	342
純資産合計	43,515	45,778
負債純資産合計	60,553	64,490

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
売上高	49,811	54,558
売上原価	36,547	40,389
売上総利益	13,263	14,168
販売費及び一般管理費	9,655	10,394
営業利益	3,607	3,774
営業外収益		
受取利息及び配当金	4	5
持分法による投資利益	1	1
為替差益	74	129
デリバティブ評価益	—	366
その他	28	81
営業外収益合計	108	584
営業外費用		
支払利息	8	4
投資事業組合運用損	22	27
デリバティブ評価損	8	—
その他	7	8
営業外費用合計	47	40
経常利益	3,668	4,317
特別利益		
固定資産売却益	0	4
負ののれん発生益	11	—
特別利益合計	12	4
特別損失		
固定資産除売却損	7	22
特別損失合計	7	22
税金等調整前四半期純利益	3,673	4,299
法人税、住民税及び事業税	1,494	1,696
法人税等調整額	△204	△245
法人税等合計	1,289	1,451
四半期純利益	2,383	2,848
非支配株主に帰属する四半期純利益又は 非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△17	12
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,401	2,836

四半期連結包括利益計算書  
第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
四半期純利益	2,383	2,848
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△179	73
為替換算調整勘定	△12	△9
その他の包括利益合計	△191	63
四半期包括利益	2,192	2,912
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,209	2,900
非支配株主に係る四半期包括利益	△17	12

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	3,673	4,299
減価償却費	470	529
のれん償却額	244	109
負ののれん発生益	△11	—
契約負債の増減額 (△は減少)	2	0
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△3	2
賞与引当金の増減額 (△は減少)	116	120
商品保証引当金の増減額 (△は減少)	△0	△0
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	9	9
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	11	12
災害損失引当金の増減額 (△は減少)	△41	—
受取利息及び受取配当金	△4	△5
支払利息	8	4
為替差損益 (△は益)	△6	△0
持分法による投資損益 (△は益)	△1	△1
投資事業組合運用損益 (△は益)	22	27
デリバティブ評価損益 (△は益)	8	△366
固定資産除売却損益 (△は益)	7	18
売上債権の増減額 (△は増加)	△222	△571
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△3,062	△1,449
仕入債務の増減額 (△は減少)	291	△34
未払費用の増減額 (△は減少)	64	339
その他	181	△303
小計	1,758	2,741
利息及び配当金の受取額	4	5
利息の支払額	△8	△4
法人税等の支払額又は還付額 (△は支払)	△1,693	△1,116
営業活動によるキャッシュ・フロー	61	1,626

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△12	△13
有形固定資産の取得による支出	△728	△187
有形固定資産の売却による収入	0	4
無形固定資産の取得による支出	△454	△373
長期前払費用の取得による支出	△8	△2
投資有価証券の取得による支出	△500	△427
出資金の払込による支出	△161	—
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△1,262	—
その他	△46	△20
投資活動によるキャッシュ・フロー	△3,173	△1,019
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の増減額 (△は減少)	1,300	800
長期借入金の返済による支出	△122	△79
配当金の支払額	△703	△703
リース債務の返済による支出	△41	△34
その他	11	△0
財務活動によるキャッシュ・フロー	444	△17
現金及び現金同等物に係る換算差額	12	6
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△2,655	596
現金及び現金同等物の期首残高	25,939	23,494
現金及び現金同等物の四半期末残高	23,283	24,091

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2023年7月14日開催の取締役会決議に基づき、2023年8月10日付けで、譲渡制限付株式報酬として自己株式40,500株の処分を行っております。この結果、当第2四半期連結累計期間において、資本剰余金が19百万円増加、自己株式が29百万円減少し、当第2四半期連結会計期間末において資本剰余金が2,089百万円、自己株式が1,230百万円となっております。

(会計方針の変更)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	プラット フォーム	コマース	その他	計		
売上高						
メディア	11,969	—	—	11,969	—	11,969
サービス	2,874	—	—	2,874	—	2,874
物品販売	—	12,868	—	12,868	—	12,868
チケット販売	—	19,253	—	19,253	—	19,253
その他	—	—	2,769	2,769	—	2,769
顧客との契約から 生じる収益	14,843	32,122	2,769	49,734	—	49,734
その他の収益(注)3	—	—	76	76	—	76
外部顧客への売上高	14,843	32,122	2,846	49,811	—	49,811
セグメント間の内部 売上高又は振替高	29	0	999	1,029	△1,029	—
計	14,872	32,122	3,845	50,840	△1,029	49,811
セグメント利益	4,366	55	161	4,583	△975	3,607

(注) 1 セグメント利益の調整額には、セグメント間取引消去△23百万円、全社費用△951百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3 その他の収益は、「リース取引に関する会計基準」(企業会計基準第13号)に基づく賃貸収入等であります。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

「コマース」セグメントにおいて、第1四半期連結会計期間にコスミック流通産業株式会社の株式を取得し連結の範囲に含めました。なお、当該事象によるのれんの増加額は1,082百万円であります。

「その他」セグメントにおいて、当第2四半期連結会計期間に沖縄バスケットボール株式会社の株式を取得し、同社及び同社の子会社である沖縄アリーナ株式会社及び沖縄スポーツアカデミー株式会社を連結の範囲に含めました。なお、当該事象によるのれんの増加額は1,247百万円であります。

(重要な負ののれん発生益)

「コマース」セグメントにおいて、第1四半期連結会計期間にコスミックGCシステム株式会社の株式を取得し連結の範囲に含めました。なお、当該事象による負ののれん発生益の計上額は、11百万円であります。

3 報告セグメントごとの資産に関する情報

第1四半期連結会計期間において、コスミック流通産業株式会社及びコスミックGCシステム株式会社の株式を取得し連結の範囲に含めたことで、「コマース」のセグメント資産が前連結会計年度末と比較して、3,898百万円増加しております。

当第2四半期連結会計期間において、沖縄バスケットボール株式会社の株式を取得し、同社及び同社の子会社である沖縄アリーナ株式会社及び沖縄スポーツアカデミー株式会社を連結の範囲に含めたことで、「その他」のセグメント資産が前連結会計年度末と比較して、2,725百万円増加しております。

## Ⅱ 当第2四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)

## 1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	プラットフォーム	コマース	その他	計		
売上高						
メディア	12,662	—	—	12,662	—	12,662
サービス	3,010	—	—	3,010	—	3,010
物品販売	—	13,831	—	13,831	—	13,831
チケット販売	—	21,142	—	21,142	—	21,142
その他	—	—	3,833	3,833	—	3,833
顧客との契約から 生じる収益	15,672	34,974	3,833	54,480	—	54,480
その他の収益(注)3	—	—	77	77	—	77
外部顧客への売上高	15,672	34,974	3,910	54,558	—	54,558
セグメント間の内部 売上高又は振替高	34	0	1,060	1,095	△1,095	—
計	15,706	34,975	4,971	55,653	△1,095	54,558
セグメント利益	4,556	163	90	4,809	△1,035	3,774

(注) 1 セグメント利益の調整額には、セグメント間取引消去△20百万円、全社費用△1,015百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3 その他の収益は、「リース取引に関する会計基準」(企業会計基準第13号)に基づく賃貸収入等であります。

## 2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、「注記事項(セグメント情報等)」に記載のとおりであります。